

掲載日付：2013年10月15日

媒体：日本大学広報 第656号



大田区の産学連携 フェアにブースを出展

NUBIC

東京都大田区が10月3、4日の両日に開催した産学連携・新技術展「おた研究・開発フェア」に本学の産官学連携知財センター(NUBIC)がブースを出展し、新しい技術を求めて相談に訪れる企業関係者が引

り無しに顔を出すにぎわいぶりだった。写真。

同展は「大田区にすれば見つかる『未来の技術』をキャッチフレーズに、全国の主要大学や

研究機関、技術系企業など合計88団体が出展。町

工場の多い土地柄を考慮して、本学からは理工、

工、生産工、文理の4学

部から、「高比強度を有する純チタン構造材料」

や「導電性ゴムによる台

変形を捉える技術」とい

った工業系の技術計9件

が展示された。

なかでも関心を集めたのは、「脊椎疾患の早期・

初期診断」や「触覚セン

サを用いた乳癌チェック

」の開発」など医工連携の新技术。

さらに理工学部の鈴木薫教授の「ナノ・マイクロバブルの粒径を均一に吐出する圧電振動ノズルの発生装置の開発」は、

注目の技術を案内する計28点の「出展者プレゼン」に選ばれ、来場した多くの人の前で紹介された。